

# 柳泉園NEWS

りゅうせんえんニュース

1991.9.1.AUTUMN VOL

16



(柳泉園組合内、資源物置場)

## 資源化によるごみの減量

廃棄物（ごみ）の資源化は、私たちの生活環境の保全をはじめ、省資源・省エネルギーや地球規模での環境問題の解決、或いは、ごみの資源化を進めることで、地域住民の参加によるコミュニティの形成など、さまざまな効果があります。また、この資源化によって、ごみの発生量を抑え、処理施設及び埋立処分場の延命化を図ることは、緊急かつ重要課題のひとつでもあります。

国土の狭い我が国では、廃棄物の埋立処分場の確保が難しい状況にあり、また、当組合のような処理施設においても、新たな施設（工場）の建設には莫大な費用を要するなど、その施設整備も容易ではありません。したがって、ごみを貴重な資源としてとらえて分別回収し、中間処理施設及び埋立処分場の負担を軽減するためにも、ごみの資源化事業を積極

柳泉園組合管理者 末木達男

的に進めることが求められています。

私たちは、今までのように商品を大量に消費する生活を改め、ごみをなるべく発生させないことと、日常生活を通して、繰り返し資源を再利用（リサイクル）する社会形成への転換を図るため、ごみの減量化や資源化に関心をもって、その役割を担い自ら行動することが必要ではないでしょうか。

これまでの清掃行政は、ごみを適正に処理することを原則として、迅速かつ安定的に処理・処分する努力をしてきましたが、今後は、施設の整備・拡充を図ることはもとより、ごみの減量とリサイクルの促進を念頭に置き、ごみの発生から処分まで全体の管理に配慮して、一貫した対応が必要であります。住民並びに事業者の皆様方には、一層のご協力をお願い申し上げます。

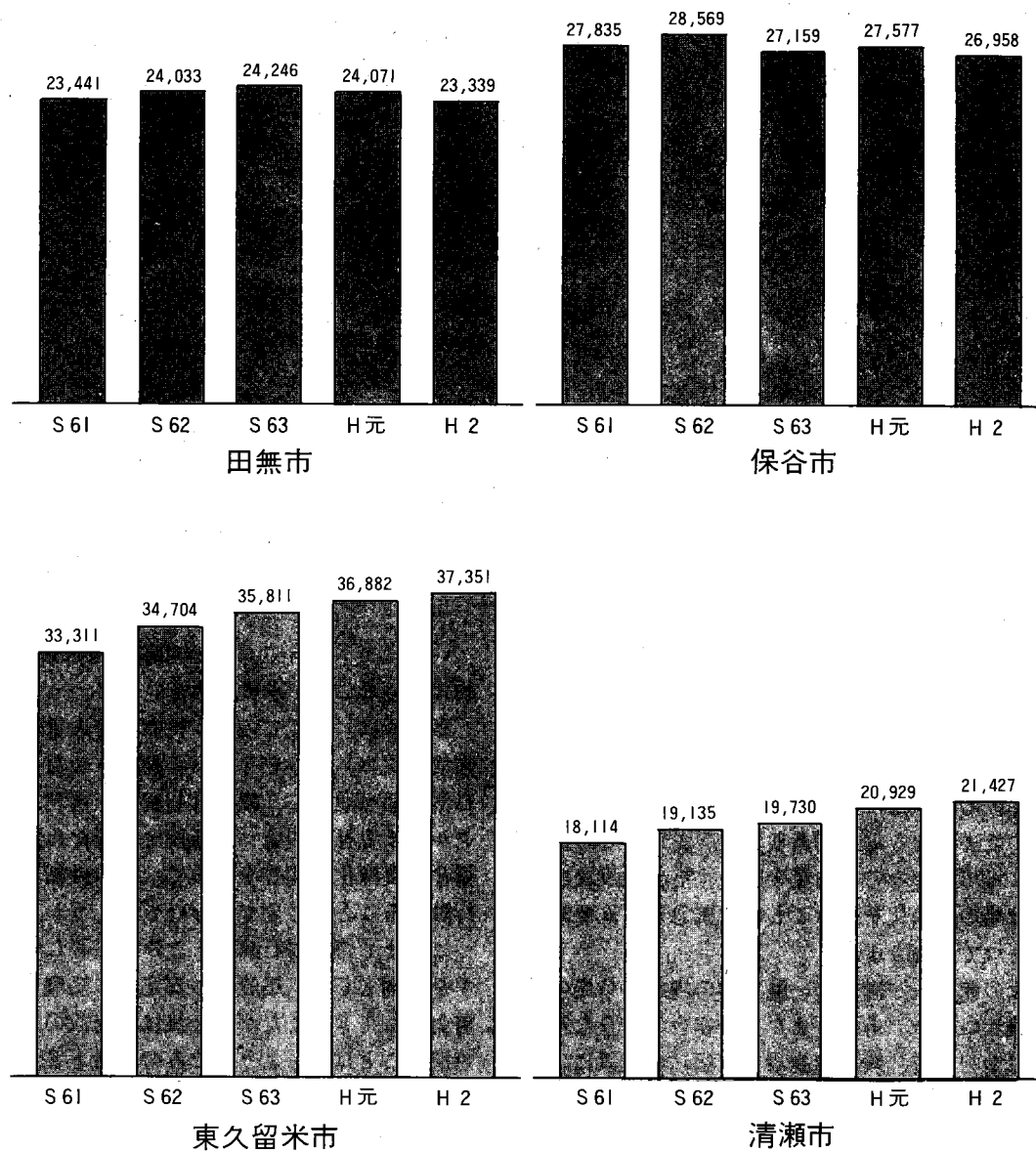
# ごみの搬入量の推移

当組合の関係四市から搬入され、処理したごみの量は、昭和61年度以降毎年2～3%程度の増加を示していましたが、平成2年度は合計で109,075トンあり、前年度に比べ384トン(0.4%)の減少となり

ました。中でも、田無市と保谷市については、二市の合計で1,351トン(2.6%)減少しました。これは、市民の協力のもとに資源回収が行われた努力による効果です。

表-1 ごみの搬入量の推移(トン/年)

(搬入量は、事業系の一般廃棄物を含む)



施設で処理したごみの、人口1人当たりの量について、昭和61年度以降は(表-2)のようになっています。

不燃ごみについては、特に資源化による減量効果があります。

当組合に搬入される不燃ごみの組成(表-3)から、資源回収することによって、再利用できるその量(減量効果)について検討してみましょう。

(1)資源として回収し再利用可能なもの

- ① 鉄類(鉄の製品)
- ② 非鉄類(アルミ、銅、真ちゅうなどの製品)

③ ガラス類(食品関係の瓶などの製品)  
なお、花瓶、化粧瓶等は再利用できません。

(2)平成2年度の不燃ごみを回収して再利用できる量は、次のようになります。

搬入量(処理量)18,077トン/年

- ① 鉄類は約19%で、約3,435トン/年
- ② 非鉄類は約3%で、約542トン/年
- ③ ガラス類は約19%で、約3,435トン/年

当組合に搬入される不燃ごみは、約7,412トンの量が1年間に減量できます。これは1日約20トン、1人1日当たり約58グラムの重さになります。

表-2 1人1日当たりの量(g/人・日)

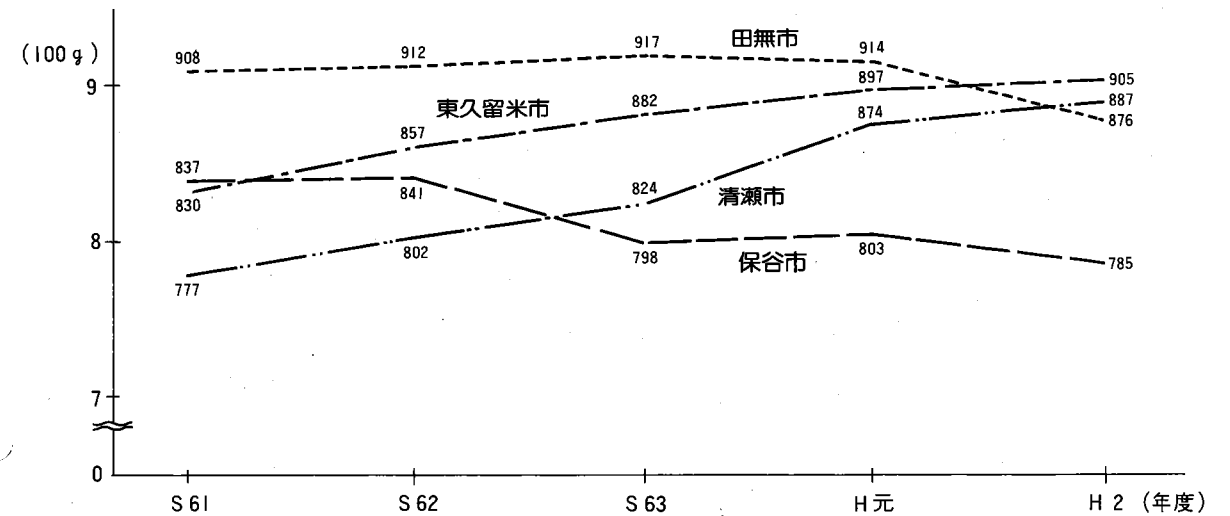
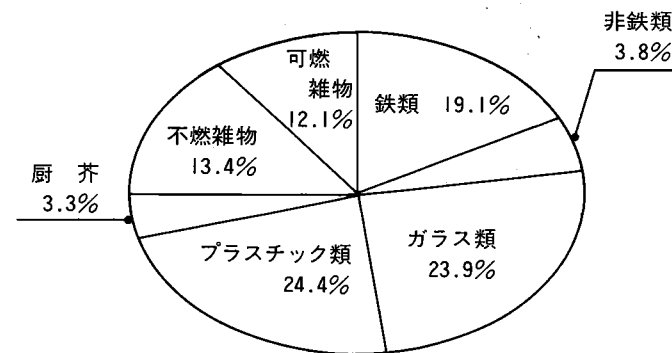


表-3 不燃ごみの物理組成(年平均・%)



以上の結果となりました



# 減量化のための行動

ごみを減量するには、各自が日常生活の中で、深い関心を持ち、自らの行動を見直し、そのための努力が必要です。具体的な例を示すと、次のようなことが言えるのではないでしょうか。

(1) ごみの減量やリサイクルを重視する。

- ① ごみ減量化の主役は個人であることを自覚する。
- ② ごみの発生を抑える意識を持つ。
- ③ ごみは資源であるという意識を持つ。

(2) 環境に合った商品を利用する。

- ① 使い捨て容器・製品の使用を見直し、リサイクルが容易な商品を利用する。
- ② 古紙製品などの再製品を利用する。
- ③ 詰め替え式の商品を利用する。
- ④ エコマークなどの商品を利用する。

(3) 過剰包装をやめて適正包装することに協力する。

- ① 買い物には風呂敷や買い物袋を持っていく。
- ② 店頭で過剰に包装することを断る。
- ③ ノートレイ、ノーパック運動を進める。

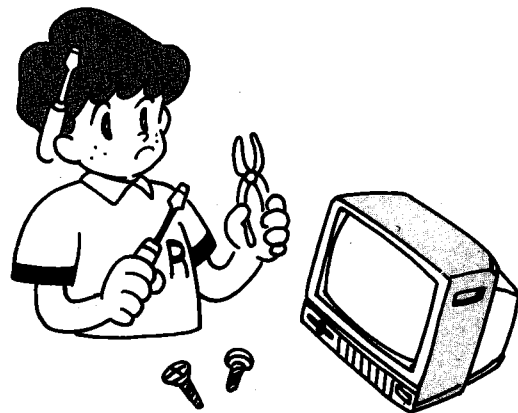
(4) ごみを安易に排出しない。

- ① 使わなくなったものはメーカーに下取り・回収してもらう。
- ② 故障した場合はなるべく修理して使う。

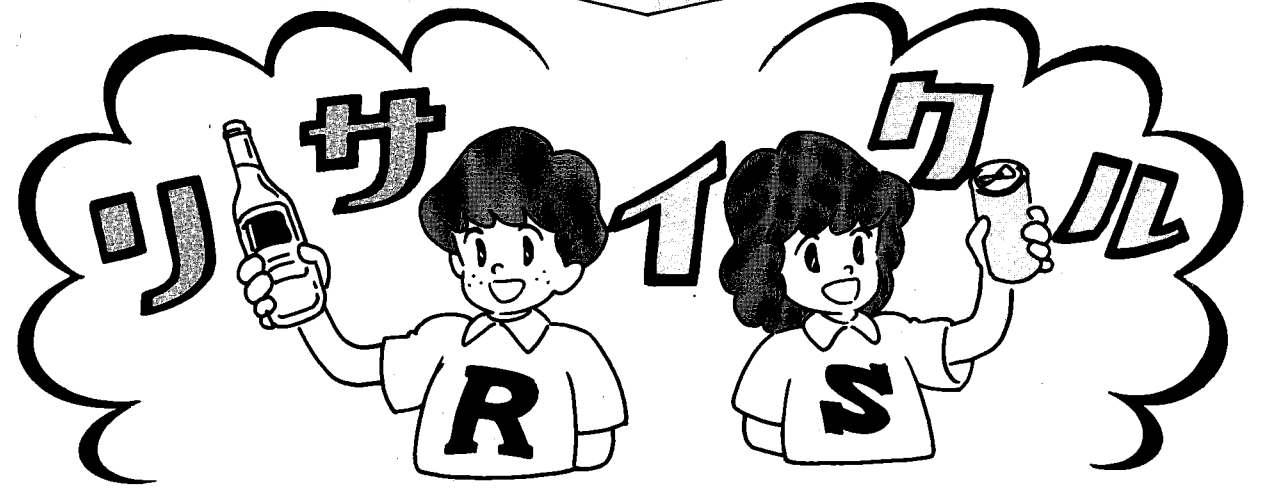
(5) 空き缶・空きびんを散乱しない。

(6) ごみの出し方を考え、資源になるものはリサイクルルートに乗せるようにする。

(7) リサイクル活動（資源回収など）に対して積極的に参加・協力する。



そして



ごみを減量するためには、例えば、商品を購入する場合、ごみとして処分するときのことを考える。或いは、ごみを出す前に、まだ使えないか、ほかに必要な人がいないかなどを考え、できるだけ、ごみを少なくするように心掛ける。

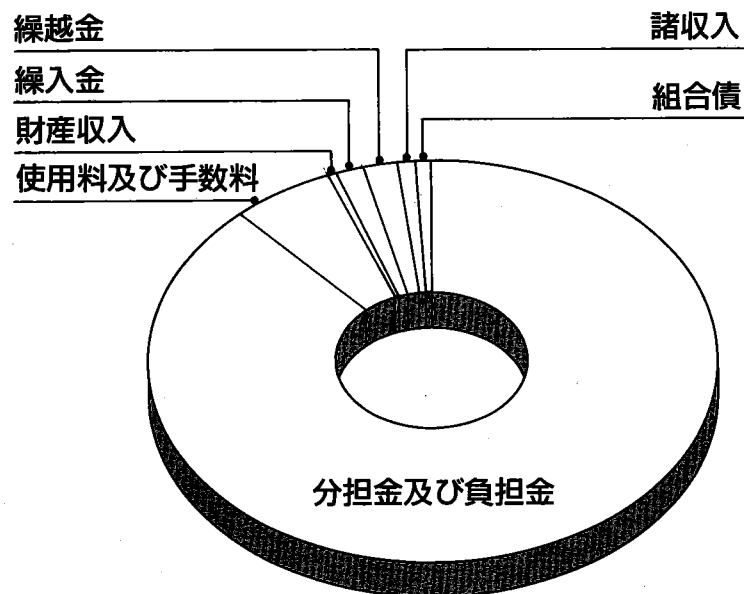
また、ごみも分別すれば、十分に資源となることも考え合わせ、積極的にごみの発生量を抑えることと、商品がリサイクルするための行動が必要です。

ごみの減量化には、個人の「意志と知恵と努力」が必要であり、その行動が成果として現れます。

# 平成3年度の予算について

予算総額 19億9,802万2千円

## 歳入予算



①分担金及び負担金

柳泉園組合を構成する四市の負担金、17億1,702万円

②使用料及び手数料

体育施設の使用料及び焼却手数料等、1億4,985万1千円

③財産収入

基金の運用利子収入 297万8千円

④繰入金

基金から一般会計への繰入金 3,863万7千円

⑤繰越金

平成2年度からの繰越金 5,000万円

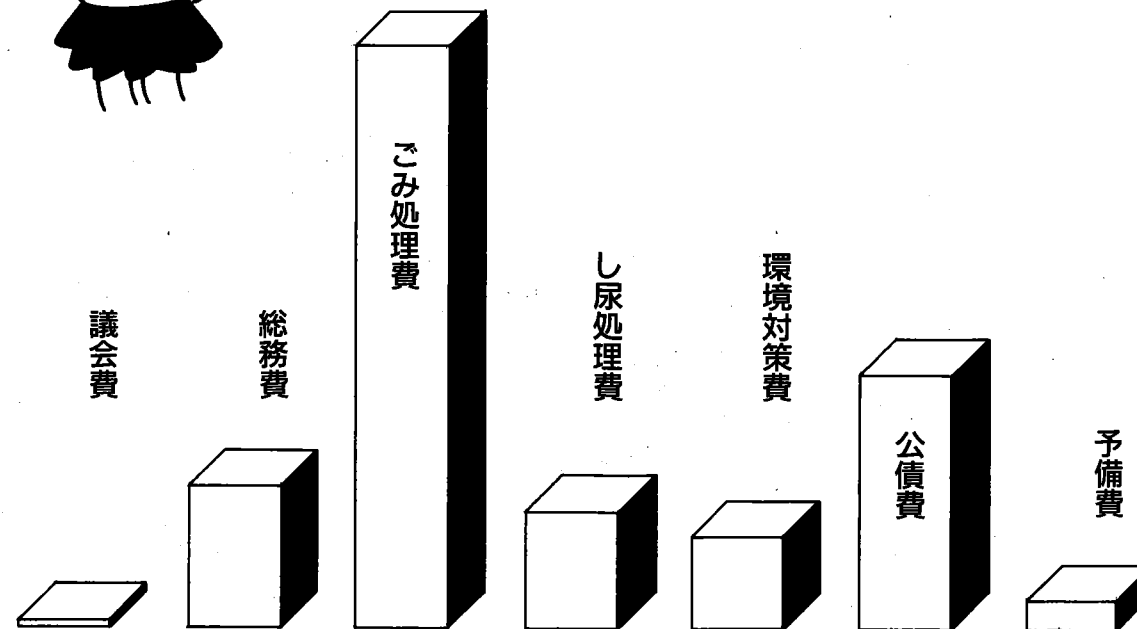
⑥諸収入

一般会計の運用利子収入及びその他の収入、2,613万6千円

⑦組合債

施設整備工事費の借入金 1,340万円

## 歳出予算



①議会費

組合議会の運営経費 800万3千円

②総務費

組合内の共通した事務の関係費用や、会計事務などの経費 2億3,248万2千円

③ごみ処理費

ごみ処理施設の第一・第二工場及び粗大ごみ処理施設の運転など、施設を維持管理する経費 9億5,182万6千円

④し尿処理費

し尿処理施設の運転など、施設を維持管理する経費 1億8,876万7千円

⑤環境対策費

体育施設を維持管理する関係費用ごみ・し尿等の施設に関する事務及び分析などの経費 1億5,031万4千円

⑥公債費

ごみ・し尿の処理施設及び体育施設を建設した借入金の返済経費 4億1,797万1千円

⑦予備費

臨時的な施設の修理費用及び人件費の留保分等の費用 4,865万9千円

# enjoy sports

エンジョイスポーツ

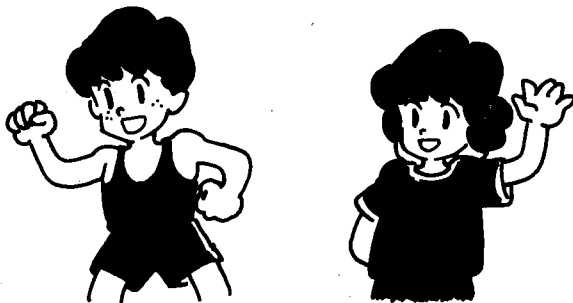
## 体育施設

### トレーニング機器、充実

柳泉園温水プール施設内のトレーニング室は、東京都の助成金を受けて、機器を設置及び増設し、設備がさらに充実しました。

- ・ランニングマシン 1台新設
- ・サイクリングマシン 2台増設(計5台)
- ・ベルトパイプレーター 2台交換

上記の助成金は、東京都が宝くじ事業収入を財源として、コミュニティ活動に対する助成事業を行っているものです。



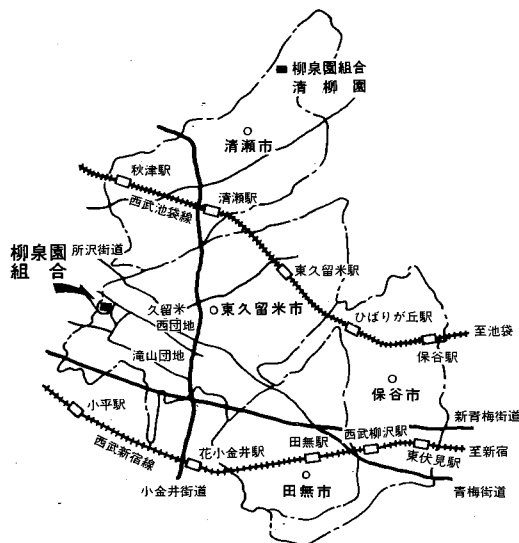
- トレーニング室で気持ちのいい汗かきませんか。  
温水プール施設内のトレーニング室には、左記の機器のほか、全身のマッサージができる「ローリングハイクラウン」や、体力測定のできる器具など、10種類以上の機器類を設置してあります。
- ・使用対象は高校生等以上です。
- ・使用料は200円(2時間)です。

### Message

## 組合からのお願い

- ①ごみは、できるだけ出さないように心がけて下さい。ごみを処理するには大変お金がかかるのです。当組合だけでも1トン処理するのに約7,300円かかり、処理の他に議会費、総務費、環境対策費、その他公害対策費用等を加えると1トン処理するのに約12,300円かかってしまいます。ごみが少なくなるとこの費用を他の行政費用に回すことができます。
- ②ごみを出す時は、「燃やすごみ」「燃やさないごみ」に必ず分けて出すようにして下さい。このことを守っていただかないと施設を痛めたり、公害発生の要因となるため、この防止にも費用がかかります。
- ③スプレー缶・簡易ガスボンベ等は、内容物を十分出し切ったうえ、穴をあけてから出してください。なお穴をあける際には、屋外など火気等危険のない場所で行い、顔など身体にかからないように注意して下さい。また、関係四市では有害ごみの分別回収をステーション収集方式、あるいは電気店等の拠点収集方式で市民の皆様をお願いします。これらの点についてより一層のご協力をお願いいたします。

ここが柳泉園です。



管内人口 133,080人(平成8年8月1日)  
世帯数 13,308世帯(平成8年8月1日)  
人口 351,732人(平成8年8月1日)